



# 担い手通信



JA bank Mie

Topic

今月の話題

## 小・中規模圃場お任せ

# ドローン利用進む

## 費用・操縦の負担減

### 防除・診断

**ド**ローン(小型無人飛行機)の飛行を定めた改正航空法が2015年12月に施行され、農林業で利用が急速に広がっています。農業では薬剤散布用に、動力噴霧器と産業用無人ヘリコプターの間を埋める新たな選択肢として小・中規模圃場(ほじょう)で使う生産者が増えています。高性能カメラによる生育診断などが進む他、資材の運搬など品目や目的に応じた活用法が見えてきました。

農水省によると16年度にドローンを使った防除面積



薬剤散布にドローンが活躍

は684・4畝で、水稲586・4畝、大豆97畝、その他露地野菜が1畝でした。無人ヘリの防除面積(105万畝)の0・1%にも満たない面積ですが、農水省は「17年度は未集計だが」水稲では、かなり増えている「(植物防疫課)と推測しています。さらに飛行に規制が少ない生育診断などでは、広範囲

で利用されているとみられます。

千葉県東金市で水稲28畝を作付けしている菅野さんは16年5月、防除用に薬剤5畧を積めるドローンを購入しました。面積が20畧を超えた時から、薬剤2畧が積める小型無人ヘリで防除をしていましたが、規模拡大を考え、ドローンに替えました。

16年3月に3日間の講習を受け、免許を取得。機体分を含めて、費用は約230万円でした。高額な投資ですが、「20〜30畧は、10000万円超の無人ヘリを使うほどの規模ではなく、ドローンがちょうどいい」と話します。菅野さんは、8月盆までにカ

ムシといもち病防除のため1、2回使います。圃場は、30畧以下の区画が主で、1回の薬剤補給で約60畧分の散布ができます。実際に計測したところ、20畧圃場で離陸して散布、着陸するまで4分弱でした。

### 数字でみえる 三重県の農と食

## 三重県内の小麦の作付面積

平成29年産の三重県の小麦の作付面積は、東海農政局「東海3県の麦類(平成29年産)の生産動向」によると、6430<sup>ヘクタール</sup>で全国5位です。作付面積は増加傾向で10年前の平成19年と比較すると1200<sup>ヘクタール</sup>増加しています。東海3県の平成29年産の作付面積を全国と比較すると、愛知県が5530<sup>ヘクタール</sup>で同7位、岐阜県が3190<sup>ヘクタール</sup>で同12位と三重県の作付面積が一番多くなっています。

6430<sup>ヘクタール</sup>

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

## JA一志東部

### ブロッコリー育てて調理→ツリーに 愛着も山盛り

JA一志東部は12月13日、松阪市立米ノ庄小学校の3年生32人と、クリスマスツリーをかたどった「ブロッコリーツリー」を作った。使ったブロッコリーは、JAの指導を受けて児童が学校の畑で栽培し、同日収穫した。JAは2017年から、「野菜嫌いをなくそうプロジェクト」の一環で「ベジファンスクール」を開校。栽培管理から収穫、調理実習を経て、地元の農作物に愛着や誇りを持つファンづくりを目指している。ブロッコリーツリーは、カボチャサラダで作った円すい状の土台にブロッコリーを盛り付け、パプリカやチーズで飾り付けた。(2017/12/14 総合社会)

## JA松阪

### 「きっする食堂」1周年 直売所と連携 売り上げ目標の1.4倍

JA松阪の地産地消の拠点、ファーマーズマーケットきっする黒部に隣接する「きっする食堂」が1周年を迎えた。1年間の総来店者数は約3万人。売上額も当初目標の1.4倍となる1700万円を達成した。直売所と食堂双方の客を循環させ、機能を連動させるのが最大の強みだ。食材は食堂の職員が毎朝売り場に出向いて仕入れるため、料理は手軽な値段で提供できる。季節感を持たせ、家庭的な味付けにこだわった料理に多くの固定客がついている。(2017/12/6 ワイド2東海)

## JA伊勢

### 育てた芋でケーキ作り 三重・伊勢市立城田小など

伊勢市立城田小学校2年生53人とJA伊勢城田地区女性部は11月下旬、「きんときこまち芋のロールケーキ」を作った。サツマイモは、同校が体験学習用に設けた「にこにこ畑」で、児童らが栽培したものを使った。調理では、「うまくに伊勢シェフクラブ」に所属するフレンチレストラン「ジャンティエユ」の井上純シェフらが協力。児童らは、包丁の使い方などを教わりながら調理をした。同クラブは地産地消と食文化への意識向上、子どもへの食育などを目的に活動している。(2017/12/3 エリア東海)

## ピックアップ pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介する。

## Webで情報を共有 地域全体で害獣の捕獲へ

### 情報 報通信技術(ICT)を活用し、檻や罠をパソコンやスマートフォンなどで遠隔監視・操作、情報共有できるシステム

「クラウドまるみえホカクン」を三重県農業研究所(研究担当者・山端直人(現在・兵庫県立大学))が鳥羽商船高等専門学校、株式会社アイエスイーと共同で開発しました。

イノシシ、シカは防護柵を併用した加害個体の捕獲や高密度地域の集中捕獲が、サルには追い払いなどの被害対策と併せ

て群れ単位の頭数管理が重要で、調査に基づく捕獲計画の策定や実施可能な体制構築を前提とした遠隔監視・操作システムの導入が有効です。

「クラウドまるみえホカクン」は、クラウドスペースに連動しており、侵入センサーに連動した接近情報のメール通知、檻や罠の映像の閲覧、遠隔でゲートを落

### クラウドまるみえホカクンの外観とシステムの概要



お問い合わせ先 三重県農業研究所 地域連携研究課 ☎0598-42-6356  
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 ☎0795-80-5500

## 農業を営む すべての方に

今ならJAバンク利子補給制度により、お借入から当初3年間は最大年1%の利子補給が受けられます。

# 農業経営資金

すべての農業者の 実りある未来をサポートします。

- トラクターなど農業用機械の購入資金
- 栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- その他農業経営に必要な資金

明日の農業を担うみなさまへ  
JAバンクは地域農業を応援します!

詳しくは、お近くのJA/バンク窓口までお問い合わせください。  
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>



平成29年12月現在

## 【金利情報】平成29年12月20日現在

### 農業経営資金

変動金利 年**1.00%**

固定金利 年**1.50~2.00%**

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

### スーパーS資金

年**1.5%** (変動金利)